

除雪延長約740km。冬本番に向け万全の準備

「豊岡市除雪隊発隊式」挙行

12月1日、本格的な降雪シーズンを前に、防災公園北側で、豊岡市除雪隊の発隊式を行いました。

市の車両で行います。

本市では15cmの積雪で、原則午前4時に出動し、8時30分までに幹線市道の除雪を終えることとしています。除雪延長は、車道と歩道を合わせて約740km。これは、本市から岩手県盛岡市までの直線距離に相当します。作業は委託業者の協力も得て計174

台の車両で行います。発隊式は、本庁の除雪隊員（都市整備部職員）約70人が参加。ずらりと並んだ除雪車両の前で市長から訓示を受けました。続いて、各車両に乗り込んだ隊員が、車両前に取り付けられた雪をかき分ける「スノープラウ」や搭乗ライトの動作点検を行いました。

除雪隊は、来年の3月31日まで、積雪時の道路交通の確保に努めます。



▲試運転を行う除雪車両の車列

大切にしたいみんなの人権
市民ふれあいのびどろ式町水晶はとふるコンサート開催

11月26日、市民会館で、脳性麻痺の障害がありながら、東日本大震災の被災地などでボランティアの演奏活動を続けるプロバイオリン奏者の式町水晶さんを招き「はとふるコンサート」を開催しました。

このコンサートは、人権啓発事業の一環として、市人権教育推進協議会と本市、本市教育委員会が共催。伸びやか

な音色を奏でる式町さんのバイオリンと、プロのピアノ、ベース、パーカッションの奏者が共演しました。また前日には、豊岡稽古堂で、市内の障害者や、その家族らを招待した演奏会も行いました。

参加者は、式町さんのコンサートや話を通して、生きる勇気や希望をもらい、また「いのち」障害について改めて考える機会となりました。



▲伸びやかな演奏で観客を魅了する式町さん

「玄武岩の玄武さん」も
新年をお祝い



▲犬ぞり(植村直己風)



▲日本ジオパーク認定10周年



▲犬も歩けば二〇一八

この画像は、市ホームページからダウンロードできます。

主な市政の動き

- 〔11月〕
- 13日・東京オリンピック(ポルト競技)事前合宿候補地ドイツポート協会視察の受入れ
- 14日・豊岡エキシビジョン2017
- 15日・第2次但馬定住自立圏共生ビジョンの変更
- 16日・市議会臨時会
- 17日・仲田光成記念第17回豊岡全国かな書展(19日)
- 27日・豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会
- 29日・豊岡市空家等対策協議会
- 30日・消防本部年末警戒発隊式
- 〔12月〕
- 1日・市議会定例会開会(26日)
- ・豊岡市スポーツ特別アドバイザーに上治丈太郎さん就任
- ・除雪隊発隊式
- ・豊岡稽古堂ライトアップ(2月28日)
- 2日・豊岡地域クラウド交流会
- 9日・FLAP・つながるSALON

出石永楽館満員御礼!!

そして会場は大笑い~ NHKラジオ「上方演芸会」公開録音

11月24日、出石永楽館で、NHKラジオの長寿番組「上方演芸会」の公開録音が行われ、抽選で選ばれた市民ら約280人が、上方芸人の漫才を楽しみました。

初めに、地元の主催者として中貝市長が登場。「私は漫才師ではございません。豊岡市長です」「ラジオ収録のため顔をクシャクシャにして笑いましょう」などとあいさつ。その後、2回に分けて収録が行

われました。

1本目の出演は「女と男」と「平和ラップ・梅乃ハツパ」。2本目は「ボルトボルズ」と「大木こだまひびき」。

会場は、上方ならではの軽妙な掛け合いに、大きな笑いとお手の渦に包まれました。

この公開録音は、12月17日と24日の日曜日、NHKラジオ第1放送で放送された他、国際放送で世界にも流されました。



▲「ボルトボルズ」の漫才

東京で平田オリザさんが豊岡の魅力を発信~

11月14日、トランクホテル(渋谷区)で、本市の取組みを紹介するイベント「豊岡エキシビジョン2017」を開催しました。

このイベントは、平成21年から毎年開催し、今年で9回目。テレビ・雑誌などのメディア関係者など約220人に参加いただき、豊岡の魅力(情報)を発信しました。今年、小さな世界都市

「豊岡エキシビジョン2017」開催

ローカルとグローバルシティーのLocal & Global Cityの実現に向け活躍している平田オリザさんら9人が登場し、豊岡の芸術文化、豊岡靴、コウノトリ育む農法などを紹介しました。一人でも多くの人に豊岡を知ってもらい、訪れてもらうとともに、豊岡のまちづくりと共に、豊岡の魅力を発信し、応援してくれる豊岡ファンを増やす取組みを進めます。



▲多くの参加者でにぎわったイベント会場

中貝市長の徒然日記 ⑫

世界とつながる

日本を代表する劇作家、平田オリザさんの豊岡移住計画は、以前徒然に書きました。

平田さんとやり取りしていると、驚くことばかりです。

10月13日深夜のメールです。「本日は慌ただしく失礼しました。いま羽田で、深夜便でバンコクに戻ります」「え?」

平田さんは作品を制作するためバンコクに長期滞在中で、その合間に豊岡に一時帰国され、その足でまたタイにお帰りになったのでした。

11月23日。「バンコクシアターフェスティバルで最優秀作品賞をいただきました」

11月26日も豊岡で仕事。夕方、但馬空港をたたれました。翌日「先ほどパリに着きました。午後から稽古です」

12月2日。「いま、ちょうどパリのホテルを出て、ドイツに向かいます。昨晩のオペラは大成功でした」。平田さん原作のオペラがパリで上演されたのでした。「作曲の細川俊夫さんは、現在日本の現代音

楽の最高峰の方で、福井県の武生で音楽祭の芸術監督としておられます」

パリの次は、ドイツのケルンで上演だそうです。

「いまは、パリからベルギー経由でドイツに向かう列車の中です。先ほどリエージュという町を通ったのですが、ここでは今年城崎国際アートセンターで制作された『思い出せない夢のいくつか』が、来年の秋に上演されます」。

「思い出せない夢のいくつか」は、平田さんの原作を基にベルギー在住の新進気鋭の劇作家が城崎国際アートセンターで制作された演劇です。

余談ですが、以前、東京五輪のロゴの盗作騒ぎがありました。それは、リエージュ劇場のロゴとそっくりだ、というものであります。

「あと10年もすると、ヨーロッパのほとんどの都市と豊岡市がアートでつながることになります」

12月7日。「午前2時過ぎに無事生まれました。今からコウノトリ号に乗ります」平田さん、55歳で父親です。